

○議員（15番 大浦 孝司君） 清風会の大浦でございます。本日、最後ということでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、通告に従い、市政一般について質問を行います。

対馬市ケーブルテレビは総額74億円の巨費を投じ、平成20年11月から開局し、その運営は指定管理により行われ、株式会社コミュニティメディアと10年間の契約が締結され、さらに平成30年4月1日より5カ年の期間、同社との契約を更新しているところであります。

一方、美津島町雞知の拠点施設の機械等の備品については、平成28年度より10年の歳月をかけ順次その機械を更新していく方針であるとのこと、担当課より説明を聞いておるところでございます。

その総額20数億円の経費がさらにかかるとの説明であります。この業務の処理については、協定書に基づきこれを執り行われるものと思われませんが、この協定書のどこの項目により委託業務が行われているか、また、平成28年度及び29年度の実績の詳細について、市長にお尋ねするものでございます。

次に、上県町目保呂ダム馬事公園の調教師の公募についてお尋ねをいたします。

このことについては、CATVの静止画面により知り得たことではありますが、その経過と今後について、私は、平成22年度に調教師として来られた篠原さんの活躍、活動、非常に高い評価をする行動でありました。その実績をたたえていたものですが、これがそうではないような事態とお聞きして、非常に心配しているところであります。

このことについて、現在の取り組み状況、今後の展開がどうなるか、このことについて市長のほうから答弁を求めたいと思います。よろしくお願いいたします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 大浦議員の御質問にお答えいたします。

初めに、対馬市ケーブルテレビ管理運営についてでございますが、対馬市CATV施設は平成17年から平成21年度にかけて農林水産省、総務省、国土交通省の各交付金及び合併特例債を活用し、総事業費約75億円をかけ整備を行っております。

平成22年4月に総合開局し、地上デジタル放送の再送信と自主放送を含むケーブルテレビサービス、ブロードバンド、インターネット接続サービス、IP告知サービス、IP電話サービスなどのサービスを提供しているところでございます。

この管理運営業務については、平成15年6月の地方自治法の改正で導入されました指定管理者制度により、民間能力の活用による住民サービスの向上と経費縮減等を図るため、管理運営に関する権限を指定管理者に委任して、各種サービスを提供しているところであります。

施設の管理につきましては、CATV施設を構成するサーバー機器の耐用年数は5年から7年、

通信機器の耐用年数は7年から10年と言われ、設置後9年が経過し、ここ数年来、関係機器の故障が頻発し、その都度、修繕を行い、サービスを維持している現状でございます。

このようなことから、センター及び各サブセンター10カ所の全機器の設置年度、機器の状態、故障歴等の状況調査を行い、この結果をもとに、優先順位をつけ、平成28年度より10年間で計画的に更新を行っているところでございます。

10年間の更新費用はおよそ26億円と試算しておりますが、更新にかかる補助制度がないことから、財源の捻出に苦慮しているところであり、CATV施設の維持更新に係る支援について、国県に要望をしているところでもあります。

このような状況を踏まえ、更新計画の中でも市民生活においてサービス提供に支障を来す恐れがある機器の故障等によるリスクが高まった施設を優先し、長期のサービス停止という事態を招かないよう、更新を図ってまいりたいと考えます。

更新は、協定書のどの項目かという御質問でございしますが、現在、指定管理者において管理運営を行っているCATV施設の設備更新の契約は管理運営に関する協定書により定めるものではなく、あくまでも施設責任者であります本市の責任において、更新にかかる施設改修を行っているところでございます。

この更新業務の発注につきましては、適正な設計、積算により算出した予定額をもとに、原則、競争入札により執行しておりますが、更新業務において、現行サービスの維持やサービス停止への対応など、施設の保守管理と密接に係る業務で、相手先が限られる場合は、地方自治法、市契約規則に基づき、随意契約により執行しておりますので、御理解のほどよろしく申し上げます。

過去2カ年の更新にかかる事業実績でございしますが、平成28年度につきましては、IP告知放送システム改修委託とその設計監理委託をあわせた6,795万6,840円となっております。

次に、平成29年度につきましては、CATV2次集約スイッチ改修、CATVアプリケーションサーバー改修、IP告知放送システム改修とその設計監理委託をあわせた1億8,498万8,880円となっております。

2カ年の事業実績といたしましては、2億5,294万5,720円を執行しており、そのうち随意契約による執行は改修委託1億6,125万3,720円、設計監理委託1,684万8,000円で、また指名競争入札による執行は改修委託6,393万6,000円、設計監理委託1,090万8,000円となっております。

最後に、本市の通信基盤については、公設民営で運営しておりますが、施設の更新に必要な経費は将来にわたって施設管理者である本市が負担するもので、現行サービスを継続して提供する場合の更新費用は、光ケーブル等の伝送路設備を含め、およそ80億円と試算されており、本市

の財政状況においては非常に厳しいものと考えております。

しかしながら、サービス提供に必要な施設更新ができなければ、サービスの継続は困難となり、市民生活に重大な影響が生じることが考えられます。このような現状を踏まえ、本市CATV施設が将来にわたって永続的に運営可能な施設の整備運営方法、及び提供サービスのあり方を専門家の助言をいただきながら検討を進めているところでございますので、議員の皆様のご理解と御協力をお願い申し上げます。

次に、2点目の、目保呂ダム馬事公園の調教師の公募についてでございますが、現在、目保呂ダム馬事公園の調教師は、平成22年度から対馬市で2人目の調教師として来ていただき、精力的に保存活動をされ、着任から現在までの9年間で21頭の対州馬の誕生に尽力されてきました。島内の飼育頭数も着任時の30頭ほどから39頭まで回復している状況であります。

目保呂ダム馬事公園では、調教師と対州馬トレーナー2名、臨時雇用1名の4名体制で、島内39頭を各飼育施設から繁殖及び調教のため移動させながら、20頭程度を調教、飼育しております。

活用につきましては初午祭や各地でのイベントに年間15回ほど参加し、乗馬体験等のふれあいを行い、普及、啓発活動を行っております。

このような活動の中で感じますのは、調教師の対州馬に対する愛情が深く、1頭1頭我が子のように情熱を注ぎながら、どう育てていけばこの馬たちが活躍できるのか、その馬の性格、特徴を生かしながらの調教を行っている、その姿勢には頭が下がる思いであります。

その調教師から、昨年11月初旬、一身上の都合により退職したいとの申し出がありました。市といたしましては、慰留のお願いをいたしましたでしたが、本人の意思が固く、まことに残念でなりません。後任の募集につきましては、全国乗馬クラブ振興協会が試験を行い認定する乗馬指導者の資格を有する方としております。乗馬体験の挽き馬等は無資格者もできますが、一定の資格を持った方で安心安全なサービスを提供したいということでございます。

勤務条件は、対馬市嘱託職員管理要綱に基づくとしており、報酬も同要綱に定める調教師の報酬基準額に基づき、前歴等の基準を当てはめ、決定することとしております。

また、処遇につきましては、平成27年度までは調教師を含め3名体制でありましたが、調教師が厩務等を行っている負担を軽減し、調教業務に専念できるよう、平成28年度から4名体制としております。

募集申し込みは、待っているだけではなかなか難しいと思われまますので、今まで関係があった乗馬クラブへの照会や全国乗馬倶楽部振興協会及び日本馬事協会が開催する研修会等でのお知らせや、調教師からの求職情報をお願いしているところであります。

本募集において、期限内に申し込みがないことも考えられます。その場合、当然継続募集とと

もに、関係機関への依頼も続けてまいりたいと考えております。

調教師が採用できない期間は、目保呂ダム馬事公園での対州馬を使った施設利用のうち、一部に対応できなくなることも想定されますので、早急な採用が必要と、強く認識しております。

このような状況もあり、将来的には地元出身の乗馬指導者の養成を検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 対州馬の件につきまして、最初に質問をしていきたいと思いません。

ただいまの説明で、概要は把握されました。問題は調教師の確保がどうなのか、今後。このことが全てでございます。私は、平成25年度の定例会においてこの一般質問をしたわけですが、これは当時、産業建設常任委員会の目保呂ダム馬事公園の実態調査がございまして、そこに行つて状況を把握したところ、篠原さんが奮闘して、かなりの仕事をなされておつた、そして補助的な方がおらない。その中での善処することが、地元北部の上県の今の出張所ですね。その関係者に改善の申し入れ、あるいは話の聞き取りございまして、その取り組みを過去2回ほどかけて、別々の時期に行いました。

その中で、確かに作業においては補助の方が入って幾分楽にはなつたかと思いますが、調教師の待遇、これに大きな問題がありました。このことについてちょっと私は市長とこのことを、今後のことも含めて話してみたいと思うんですが、当時の話では、嘱託職員の身分を調教師の中でそういうふうなことに従っていただくと、そのときの月の何ていいますか、賃金という言葉になるかと思いますが、私も先日、話を聞きましたところ、非常に額として寂しすぎるというような感じが、実際、本人の口からも、あるいは全国レベルの中での、電話をかけて聞いたところ、これではいけないなと思ひました。

それが最初の取り組みであります。市長、いくらか現在は考え方も非常に今の答弁では過去の実績その他を加算するなり、前向きな検討をするということで、私は答えは今聞いたんですが、当時のあり方、当初のあり方、篠原さんが来られたころのあり方、このことに非常に低賃金であったということを痛切に感じております。

この辺の捉え方をどのように思われた、思われるというか、把握されておつたか。ここらについてもしあれば市長の口からそのことについて、調教師の身分が低かつたと、私は思っておりますが、市長はどのように捉えておりましたか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 個人の名前はあまり出すことにつきましては控えさせていただきますけ

ども、要はその調教師の方が、対馬市の嘱託、調教師としてみえられた際は、確か、上位のほうの格付けをしていたというふうに記憶しております。そしてまた、今、他の乗馬インストラクター等と比較をいたしましても、そんなに大きな差はないというふうに認識をしているところがあります。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） そんなに差がないという発言でありましたが、その辺は十分に調べたかどうかわかりませんが、25年当時においては、かなり年収の差ではあったことを記憶しております。

私の調査方法ですが、長崎県の詳しい方に連絡いたしまして、関東、関西方面の実績をお聞きしまして、そしてそれを当てはめたところ、年収、かなりの差があったという記憶があります。25年当時です。これ実際にしましたから。

年間、金額において100万円から150万円の差があったことだけは、私は記憶しております。今さらそれを変えてくることでなく、今から新しい指導者を迎えるに当たって、もう少し、全国レベルの調査の中で、どうやら差があります、私の聞いた話と今の説明では。

もし、これがかなわなかった場合、誰も対馬に来る方がおらなかった場合、先ほどの答弁では、地元の馬に乗る方を雇うということですが、それは、もしものことは言うてはいけませんが、それで十分現場の対応ができるかということ、ちょっと詰めてみたいんですが。

市長、先ほどの答弁で市長の考えはわかりますが、さらに深刻な問題が出やせんかという、私は懸念をしておりますが、ちょっとその辺について、1回答弁をされたんですが、さらに調教師の確保ができなかった場合、このことをこの場で、私は話し合う必要ありとこう見ています。どうぞ。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 先ほど、答弁いたしましたとおり、市といたしましては、できる限りのことをしながら、この調教師の方を募集をしたいという考えであります。

そしてまた、将来的には地元出身の乗馬指導者の養成を検討をしてみたいということでもあります。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 私、31年度の予算編成に当たって、目保呂ダムのことではなく、あそうベイパークに馬の厩舎を建設する予算2,700万円、これは9頭新しく厩舎に、玉調地区に馬を飼うんだと、当然これは乗馬ということが、巖原美津島間の乗馬人口が、私は伸びるものと期待はしております。しかし、今の、担当部署に聞いた話ですが、目保呂では12頭の乗馬用の馬がおります。それから生産供用に呈しておる雌馬が17頭、種馬が5頭、その他5頭、

39頭を管理されて、調教師1名、トレーナー2名、作業員1名、これは先ほど市長の答弁のとおりですが、この方々が目保呂にくぎ付けになり、恐らく島山地区に予算は仮に通る見込みとして、新しい展開があります。

そうしますと、非常に調教師の重要性というのがものすごい格好で出てきます。新しい馬を調教する、これは普通の力じゃ私は無理と見ておりますよ。普通の乗り手ではね。やっぱり専門職が要ります。私も乗馬のことは存じておりますから、その辺でつまづくんじゃないかなと思ってはいるんですよ。ですから、ここのところ、どうしてもう一名の確保を絶対やるという心意気と、そしてまた、そういう賃金体制のことがもう少し広範囲で勉強をされて、調査されて、そのレベルを確保しないと、対馬には来ないんじゃないかという憶測です。

先ほどの話はいいんですが、そういう危機的な状況に私は追いやられる。このように見ております。

そのことについては平行線でありますから、やりますということではありますが、心して取りかからないとそう甘いものではないと。今まではたまたまいいお人と出会ったが、そうはいかないというような気はしまして心配をしております。

この辺について、もうそういう答えを市長がされますから、地元というのはどなたか具体的なあてがあるんですか。そのことは私、皆さんによくよく聞いておっていいのかなと思うんですよ。そういう話があれば、私もいいと思っております。もしそれが、名前は出さなくても、どういう方面におるとということだけでも私はいいいことじゃないかなと思うんですが、安心はするんですが、どうですか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） この調教師の募集につきましては、先ほども申しましたように、市といたしましても危機感を持って募集をしてみたいというふうに考えております。そしてまた、この地元出身の乗馬指導者については、検討がついているのかというような御質問だと思いますけれども、現時点では特定の方はいらっしゃらないと、今後、要請をしていきたいというものでございます。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 今の話の答弁では、一生懸命やりますということですから、それでいいのかという話も通常はしませんが、具体的な行動をかかわる職員に命じて、調査をされて、その対処することを、心して探すことを、私のほうから伝えまして、この件はこれで終わりにします。

それと市長、やはり、22年から勤められた、そういうふうな調教師の実績なんですが、担当部署で調べた結果、こういうことでした。

この馬事公園、目保呂馬事公園の実績が平成15年のスタートに当たり、入場者、あるいは乗馬体験を含めて800人、年間800人がこの実績でございまして、そして、平成29年の段階、昨年の実績の3月末で、乗馬競技に関わる、馬に乗る関係者ですが、年間932名が馬事公園に訪れておると。

それと、いろいろな催し物がある中で、見学者等を含め3,800人、3,900人の方が入って、たまたま初午祭の行事が雨で中止になった平成29年の11月、およそ初午祭で1,000人不足の入場者があっただろうと、いつもそのぐらいの規模であるそうですが、それを足すと4,800人、4,900人の、平成25年に私は4,000人ぐらいの数字を読み上げた記憶があるんですが、やはり、5,000人近い乗馬の関わりを、島の方にもたらしたその仕事ぶりというのは見上げたものだと思います。

それで、帰るときには、やはりそれだけの言葉を、私は対馬の関わった人には、その言葉がほしいなと思ひまして、きょうの日をそういうふうにしております。惜しい方が出ていくなという思いでございます。

それと、最後に、乗馬人口が、これが島外からやってきております。関東、関西からわざわざ。在来馬のその乗馬が、ただ馬に乗るんじゃなくて、散策すると、もみじの山を見るとか、そういうふうなことで対馬の、何て言いますか、在来馬との関わり合いを、島外から求めて、そこまで来ているそうです。

だから、もったいないなというような思いはありまして、これは参考にしてほしいと思います。対州馬の件はそれで終わります。

それから、1つ、耳は痛いんですが、CATVのことについては、私は昨年9月、上野議員と副議長と一般質問をして、いろいろあったということが皆さんわかっておりますが、その中で、上野議員に対して市長のほうからの答弁が、平成28年度の決算において、今までかなり苦しんだ収支の展開が、28年度の決算においては6,000万円を超える、要は収入の好転があつて、マイナス80万円ぐらいの金額に収まってというふうなことがございました。その答弁の中でこう言ってますよ。インターネットが300件から500件近い伸びを示しておると。これは、要は収入増の一つの根拠です。そして、まして会社内の事業技術者の研修等によりまして、これまで外注をしていた機械類の整備も大方自社内でできるようになってきた。そしてまた、これからこれらにより、まして一般管理費の経費も大きく削減できるような状態になってきて、27年度から28年度の期において約7,000万円近い改善ができたというふうな文言が会議録にあります。

ですから、28年度からCATV美津島拠点施設の機械の更新を行う。それによって、メーカー的な機械の納入が一部、指定管理者のほうに随契ができるようになった、このような解釈で

いいんですかね、この文言は。

上野副議長に対して、質問に対して、終わりのほうにそういう書き方になっているんですが、ちょっとその辺を確認したいんです。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） きょうその資料等を持ってきておりませんし、私も読み返してもおりませんので、はっきりとした答弁は差し控えたいと思いますけれども、ただ、今こう議員の話の中で思いますのは、要はこの施設の更新につきましては、計画的な更新は平成28年度ぐらいから始めるということですが、ただそれまでの間、やはり、たびたび機器が故障をしたというようなことも確かあったと思っております。そういう際には、やはり、その指定管理者じゃないとなかなか補修等に適さない、要するに一般競争入札等には適さないと思われるときは、その指定管理者のほうにおいて補修がされているものではないかというふうに思っております。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） そしたら、今の発言されたことは、28年度から更新にかかることではなく、これまでに手がけたことの一部を話したということですよね、そういうことで解釈は。

私は、素人ですから、ちょっとこのような質問をしてみるんですが、先ほど、市長のほうから報告がございましたね。28年度と29年度の実績についてお話ございました。28年度のIP告知放送システムの改修6,072万840円、これについては、コミュニティメディアさんのほうに随契でなされたんですかね。そういうことですね。

そして、29年度のことを、先ほど説明がある中で、コミュニティメディアさんとパナソニック、要は電気会社の、電気に関わるそういうふうな業者のことが書かれてございますね。片一方はそういうふうな専門業者、片一方はコミュニティメディアさんが関与してその納品にかかわる。非常に一般的に見て、どういうふうなことでその取り計らいをしているかのような、かなり一般的にはわかりにくいと思いますよ。

この資料、私いただいて、この一覧はぱっと見えるんですが、仮に29年度のことをちょっと申し上げます。アプリケーションサーバー改修工事、設計がESS、そしてサーバー改修事業6,200万円、コミュニティメディア、さっきの設計は770万円相当。

次に、通信系2次集約スイッチ改修工事設計1,000万円ちょっとですね。工事についてはパナソニックシステムソリューションジャパン九州支社、そしてさらにIP告知放送システムの改修1,800万円はコミュニティメディア、設計についてはESS180万円、これで、総計で1億8,498万8,000円相当のことがございます。

私、担当部署とこの先だってお会いしまして、これはどういうことですかと。パナソニックが



取ってみたり、メディアが取るということがどこで基準を判定するんですかということの説明しました。再度、市長の答弁でこのことの説明を教えてください。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） このことにつきましては、担当部長のほうから答弁させていただきます。

○議長（小川 廣康君） 総務部長、有江正光君。

○総務部長（有江 正光君） 大浦議員の質問にお答えいたします。

冒頭、一般質問の口述の中で、10年間の更新事業に関してコミュニティメディアに対し優先的に発注するというのは、協定書のどの項目に記載がされているのかというような質疑がございました。

恐らく今、御紹介もあったように、随意契約により発注されている業務があるために混同されているんじゃないかというふうに考えております。

指定管理の基本協定書におきましては、修繕等に関するリスク分担に関する内容、基準、基準額でございますが、そこまでを定めており、優先的にさまざまな更新業務を発注するなどといった規定というのはございません。

あくまでも随意契約につきましては、地方自治法施行令、並びに対馬市契約規則に則り発注しているものでございますので、御理解のほどお願いいたします。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） そのことがわかりにくいんですよ。それは、そういうことが書かれておるといことを言っておるんでしょうが、そしたら、ちょっと素人の私ですから、その話を聞いてください。

2つの仕事が随契でメディアさんに、コミュニティメディアさんにやらせて、その機械器具を納品させたと。もう一つは指名競争でいきなり2社以上の中で、いきなりじゃなくて工事をやらせたと。工事というか機械を納品させて設置させたと。このパターンの中で、一つ設計というのは、あくまでも納品業者がメーカー的な機械がいくらする、そして納品するまでの経緯についていろいろそういう経緯があるんでしょう。私は知りませんが。そこらあたりは把握されていませんか。部長さんでも結構ですが。

私が言うのは、メーカー的なつくったやつを取扱業者が納品するだけでよいんじゃないかと思うんですよ。というのが、経費がかかることをわざわざ3つのポジションをこなさないかかなという、私はそういうふうなことが、どういう意味かということがわかりません。

わかりますか。私が言うのは、メディアさんがいとなぜできんかということを行っているんですよ。その金はただでするんじゃないんでしょう。もちろん、総設計の中で分配があると思うんですが、その辺はどのように捉えておりますか。そして、どの家庭にもものが流れて収まるかと

いうことを把握されているべきだと思うんです。それはどう捉えていますか。

○議長（小川 廣康君） 総務部長、有江正光君。

○総務部長（有江 正光君） 申しわけございません。先ほど、随意契約に関する説明が不足しておりましたので、追加して説明を申し上げます。

随意契約により発注した根拠は、地方自治法施行令167条の2第1項第2号ということで、性質、目的が競争入札に適さないということに該当するということで判断して、随意契約で行っております。

その内容といたしましては、機器の更改前後におきまして、CATV各種サービス接続機器の監視等が不可欠でございまして、その関連機器や各サービスへの不測の障害が発生した場合に、緊急復旧的な対応が、かつ迅速に求められることから、CATVの管理運営をしております指定管理者に随意契約で発注したということでございます。

この事業の一連の流れということで、先ほど、29年度の決算委員会における提出資料の内容をるる大浦議員のほうから説明がございましたとおり、非常に専門性の高い事業でございますので、設計監理に関しては専門のコンサルへ発注をしております。

それで、その設計に基づいた内容をもって指名競争入札を実施して、請負先を決定しているというところでございます。

先ほど、市長の答弁にもございましたとおり、原則、指名競争入札ということで、随契の理由で申し上げた内容に関する事業については、コミュニティメディアにやっていただくほうがサービスの停止等も発生しないと、そういうリスクも低くなるということで判断をして発注をしている次第でございます。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 先ほど私、質問したのは、もう一つ。物をつくったメーカーから、その仲介業者が入り、そして納品をCATVの現場に入れる。その後に何かするんでしょう。そのことを言っているんですよ。だから、メーカーとしての機械というのはコミュニティメディアが扱うということじゃなくて、その取り扱いの世界が余分に引っかかってくるんじゃないですか。私、そこがおかしいなと、わかりにくいな……。わかりにくいと言ったらいいでしょう。私、同じ質問をしたんですよ、担当部で。そうしたら、関わりをしておると。その接続した格好は十分に機能するかどうかのチェックがあるとか、それはわかるんですよ。

しかし、それを理由に大きな、要はハードのリスクを取り扱う権限をそこに持っていくということは……。私は、本当はわからんではないんですよ。なかなか赤字が抜けんやった過去の話をずうっとひも解けば、28年度までに決算を黒字にせないかんというのは。私もわかるんですよ、本当のことを言って。27年度まで1億円近い金が、要はマイナスの債務の超過で出とったわけ

ですよ。そのことは全員知つとつとですよ。その中で、よく28年度につじつまが合うたなというふうなことの中で、機械の取扱いの手数料、その他の収入が幾らか入って息を吹き返したというふうに私は見るんですよ。だから、それがいいのか悪いのかというのはわかりませんよ。そういうことの中での発言です。

それを部長、今言いましたように、物を、メーカー的な存在を要は納品する。それから後のつながりはどうなりますか、業者の扱いは。

○議長（小川 廣康君） 総務部長、有江正光君。

○総務部長（有江 正光君） ただいまの質問の前に、ちょっと訂正というか、お願いをしたいと。

指定管理者の経営に関して、大きな負債を27年度まで抱えておったので、そのつじつま合わせができたというような表現は、いかななものかというふうに思います。

そして、29年度のさまざまな事業に関して、幾つもの業者の手を煩わすような形で整備する必要があるのかと。そのサーバーであるとか、そういう製造メーカーと当然、調整……。サーバーを納入した後にそれを動かすソフトを組み込むわけですが、そのあたりが正常に作動しているか——作動するかというふうな確認につきましては、メディアのほうがCATVの総合管理技術者であるとか無線の技士であるとか、指定管理の協定の中で、そのような資格を持った職員を配置するように定めておりますので、その中で対応をしております。

○議長（小川 廣康君） 15番、大浦孝司君。

○議員（15番 大浦 孝司君） 誤解した発言でございます。私は、そういうふうな決算上のことがあるが、収入の関係を全部チェックした場合、その他の事業の収入があつてのことなんです。特に、対馬市の発注したものが大きな影響を担っておりますから、その辺についての申し上げをいたしております。

時間があと1分切りましたから、きょうの話はどうかのこうのできませんよ。できませんが、その辺のことを収入の中身がそういうふうな……。市に来とる資料から見たら——報告書がありますね、そういうふうに見えます。時間が来ましたので、私は次の機会にそういうふうな質問を継続いたします。

以上で終わります。

○議長（小川 廣康君） これで、大浦孝司君の質問は終わりました。

---

○議長（小川 廣康君） 以上で、本日予定しておりました市政一般質問は終わりました。

本日は、これで散会とします。お疲れさまでした。

午後1時50分散会

---